

人間複合科学専攻博士後期課程の概要と特色

本専攻は、人間及び人間生活にかかわる諸問題を多角的視座を保ちつつ考究し、多様な課題に対処しうる高度な学術研究を行うことを目的とする。そのために本専攻では、精神機能論、保健栄養論、生活文化論の3研究領域を設けて、広く人間の精神的・心理的な諸問題、人間とその健康にかかわる諸問題、人間生活の社会的・文化的側面にかかわる諸問題の解決を目指し、必要な授業科目を配置している。各研究領域とそれに連なる授業科目は密接に連携し、それぞれの研究領域や研究領域間における研究課題の開発を行い、学問研究への寄与を目指すとともに、当該領域における高度の専門能力を有した研究者、並びに専門職公務員等の高度に専門的な業務に従事しうる人材の養成を目指している。

1. 人間複合科学専攻のディプロマ・ポリシー

本専攻に3年以上在学し、所定の授業科目について16単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格すれば、博士（学術）の学位が授与される。

その際に、次のような能力や資質を身につけていることが求められる。

- (1) 精神機能論、保健栄養論、生活文化論の分野において、高度で深い専門的知識と技能を有するとともに、3分野を包括する多角的視座を備えている。
- (2) 科学者として研究倫理を遵守し、研究課題の設定および遂行において指導的能力を有している。
- (3) グローバルな視点で研究活動を行い、その成果を人間生活にかかわる諸問題の解決のために、社会に還元する意欲と力を有している。

2. 人間複合科学専攻のカリキュラム・ポリシー

本専攻では、精神機能論領域、保健栄養論領域、生活文化論領域の授業科目を配している。各授業科目は、それぞれの専門分野を包括する独立の教育・研究単位であるが、各々の研究領域やそれらを結んだ新たな研究領域の多様な研究課題に、多角的・融合的に対応することを可能にしている。また、キリスト教に関する理解を深めるための授業科目も用意されている。

学生は、精神機能論、保健栄養論、生活文化論のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定してその課題に関係のある科目12単位以上を、1研究領域につき最低1科目、複数の研究領域から選んで履修する。研究指導には、主たる履修科目の担当教員（正研究指導担当教員）と他の履修科目の担当教員2名（副研究指導担当教員）が当たり、研究の深化と多角的視座の確保を担保している。

3. 人間複合科学専攻のアドミッション・ポリシーと入学前の指導

本専攻では、上の目的を達成するために、精神機能論、保健栄養論、生活文化論にかか

わる専門的な知識と研究能力をもつとともに、多様な研究課題に取り組む意欲をもった学生を求める。また、本専攻では、学生に本学の建学の理念であるキリスト教に関する豊かな知識をもつことも求めている。

本専攻での研究を志望する学生は、本専攻への入学前に研究指導を希望する教員と面談して指導を受け、自らの研究課題や達成目標に輪郭を与え、入学後の研究をスムーズに進めるための準備を行わなければならない。